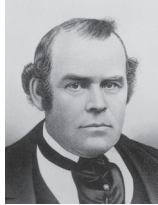


「わたしの名のために迫害を受け」 (教義と聖約 101：35)

パーリー・P・プラットは、ミズーリ州ジャクソン郡から追い出された聖徒たちの苦難について次のように記しています。



「暴漢者たちは、郡のいたるところに広がっていた。ためらいもせず家々に押し入り、……女性や子供を怖がらせ、すぐに撤退しなければ殺すと脅した。……」

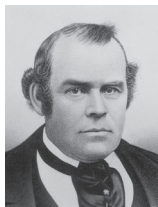
……女性と子供は方々へ逃げた。150人ほどからなる一団が草原へ逃げ込み、ほとんど食糧なしで数日間そこをさまよった。彼らの避難場所には、広がる大空しかなかった。そのほかの者たちは、ミズーリ川へ向けて逃げた。女性や子供が散らされる中、暴徒は男たちを追い、銃で撃たれる者、縛られる者、鞭で打たれる者もいれば、何マイルも追いかける者もいた。」(Autobiography of Parley P. Pratt, ed. Parley P. Pratt Jr. [1938], 101 – 102)

ミズーリの教会指導者の一人であったライマン・ワイトは、聖徒たちが経験したことについて後にこう記しています。



「わたしは190人の女性と子供たちの一団が、わずか3人の年老いた男性とともに30マイル(約50キロ)の平原を追われて行くのを目撃した。11月で、地面は薄くみぞれが凍りついている。わたしは彼らの後を簡単に追うことができた。株だけが焼け残った木が刺さって傷ついた足から血がしたたり、彼らの踏み後を転々と染めていたからである。」(Lyman Wight, in "Trial of Joseph Smith," Times and Seasons, July 15, 1843, 264)

パーリー・P・プラットは、ジャクソン郡からクレイ郡へ逃れるためにミズーリ川を渡るのを待っていた聖徒たちについてこう記しています。



「川岸には、渡し船の両側に、男、女、子供、品物、荷車、箱、食糧などの列ができ、その間も船は絶え間なく往来していました。……数百人があちこちに散らばり、土砂降りの雨の中を、ある者はテントの中に、ある者はたき火の周りに集まっていました。夫は妻を、妻は夫を、親は子供を、子供は親の行方を尋ねました。……その光景は筆舌に尽くし難く、この光景を目にしたならば、地上のいかなる人の心も同情にあふれるに違いないでしょう。あの盲目の虐待者、盲目で無知な住民を除いては。」(Autobiography of Parley P. Pratt, ed. Parley P. Pratt Jr. [1938], 102) .

- もしあなたがこれらの聖徒たちの中にいたとしたら、あなたはどのように考え、感じたと思いますか。